



第160号

発行

八重山農林水産振興センター
農業改良普及課

沖縄県石垣市真栄里438-1

Tel 0980-82-3497 Fax 82-4142

与那国駐在

Tel 080-8579-7516

令和5年度 九州・沖縄地区青年農業者会議

仲里憲治氏がプロジェクト発表で優秀賞受賞！

令和5年度九州・沖縄地区青年農業者会議が大分県日田市で開催され、石垣島ファーマーズクラブの仲里憲治氏が沖縄県代表としてプロジェクト発表し、園芸・特産作物部門1位、全16課題中でも2位の優秀賞を受賞しました。オクラの立ち枯れという地域課題へ取り組み、ポット育苗や根鉢保護移植等による対策の検討、さらに作業性改善にまで取り組んだ点が審査員から評価されました。

仲里氏は、きたる3月に東京で開催される全国青年農業者会議に九州沖縄地区代表として出場が確定しており、「全国でも入賞を目指して頑張りたい」と抱負を語られています。

(担当: 大前)



八重山から 青年農業士 認定！



就農6年目にして大規模で収益性が高い生産活動を行い、また農業関係組織において役員を務めるなど組織活動にも精力的に取り組んでいる。

土橋 玄 氏 (石垣市登野城: オクラ等)



マンゴー生産を安定的に行い、マンゴー研究会における現地検討会を受け入れ、組織全体の技術向上や役員を担うなど役割を発揮している。

川満 起史 氏 (石垣市登野城: マンゴー)



さとうきびの単収は10トン以上と高く、新規就農者との情報交換の機会を設け、栽培技術や経営について助言を行うなど担い手育成に貢献している。

友利 良太 氏 (竹富町字南風見: さとうきび)

9月8日に那覇市で令和5年度沖縄県農業士等認定式が開催され、八重山地区から**青年農業士3名**が認定されました。



八重山地区伝達式

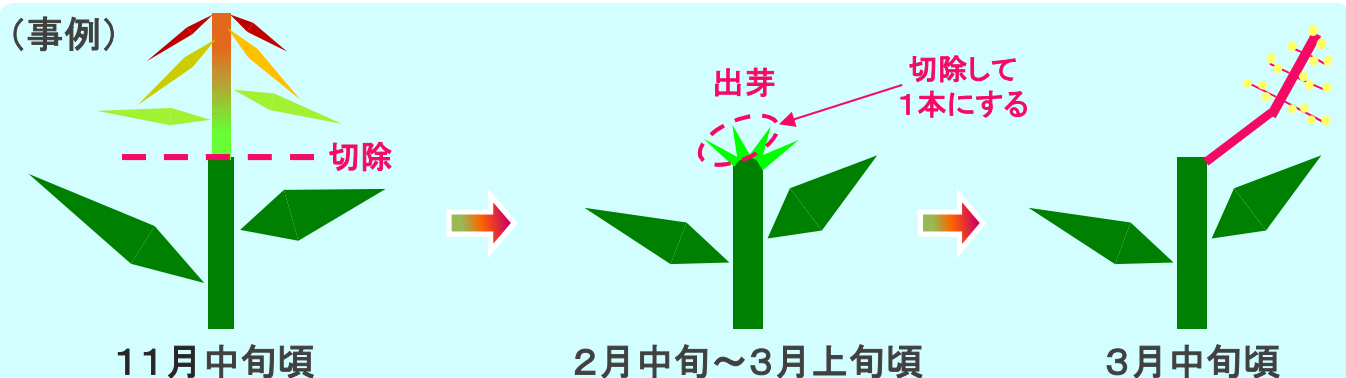
(担当: 舞木)

花芽を迎える前の3つのチェック項目(マンゴー)

1. 晩秋芽の処理を行う

遅れて発生する新芽(晩秋芽)は充実する期間が確保できないため開花が遅れたり、花芽分化しない可能性が高くなる。

⇒ 11月中旬時点で未緑化の新芽は切除する！



2. 防風林やハウス環境の整備を行って、冷氣を取り入れる

3. 保温開始(ビニール被覆)のタイミングを理解する

出芽がみられない時点で保温すると花も芽も動かない枝が多くなり着花率が低下する。動いたとしても新梢になる可能性もある。

⇒ ハウス全体の8割の枝に出芽が確認できたら保温開始する！

⇒ 他の人のハウスと比べずに自分のハウスの状況で判断する！



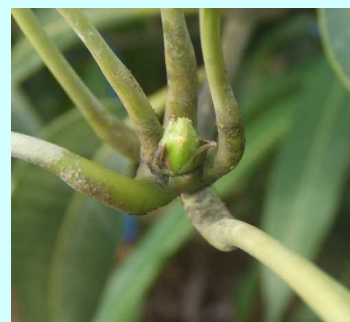
A

芽が閉じている



B

芽が割れている



C

芽が膨らんでいる

⇒ ハウス全体の枝の8割がBやCの状態になってから保温開始！

失敗事例

- ・ 周辺のハウスが被覆を始めたので、急いで自分のハウス(まだ未出芽)も被覆開始した。
- ・ 出芽状況にかかわらず、毎年〇月〇日頃に被覆すると決めている。

寒地型牧草栽培

ローズグラス
トランスバーラ
ギニアグラス 等

八重山の1月・2月の平均気温は20℃を下回る

↓
冬の生育

暖地型牧草

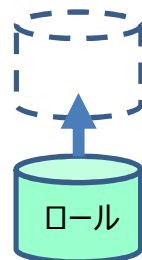
25～30℃が生育適温。

低下

寒地型牧草

15～22℃が生育適温。

良好



冬の粗飼料
を補う手段の1つ

寒地型牧草栽培

八重山の牧草地では、ローズグラス、トランスバーラ、ギニアグラスなどの**暖地型牧草**が主力の草種です。暖地型牧草の生育適温は高いことから、冬の気温では収量が低下してしまいます。一方、**寒地型牧草**は冬の気温がまさに生育適温であることから、冬の寒地型牧草栽培は、冬の粗飼料を補う手段として有効です。

栽培方法

- 草地更新後に播種がベスト！〔単播 or 暖地型種子と混播〕
- 暖地型草地に追播も可〔ただし、単播に比べ管理は難しい〕
- 播種時期は11月～12月
- 刈り取り適期は**出穂期以降**！〔暖地型牧草の適期とは異なる！〕

とくにおすすめする方

- ① 来春草地更新を予定している方
- ② 今すぐ草地更新をしたいが、冬前の播種・植え付けに悩んでいる方

県奨励品種の紹介

● イタリアンライグラス

早生種 : きららワセ
極早生種 : さちあおば
kyushu1
ヤヨイワセ



● エンバク

極晩生種 : とちゆたか
極早生種 : 九州14号
アーリーキング
ウルトラハヤテ「韋駄天」



寒地型牧草の利点

- ・栄養価が高い
- ・嗜好性が高い

※ 注意点

- ・暖冬、干ばつ時には枯死する可能性がある
- ・水分量が高い→乾燥調整が難しい、牛の便が緩くなる

寒地型牧草栽培を検討される方は、ぜひ普及課畜産担当までご相談ください。

(担当：西平)

オクラ秋植→切り戻し→トンネル栽培体系の可能性

石垣市のオクラは平成18年に拠点産地に認定され、高品質と温暖な気候を活かした周年栽培が強みですが、低温期の立枯れ被害が増加し、市場に求められる早出しが減少しています。そこで立枯れの少ない秋植（8月播種→10～12月収穫）を切り戻してトンネルを被覆し、3月から再収穫を行う栽培体系について検証しました。

表1 オクラ株数及び枝数の推移(10aあたり) ※R4年度展示圃実績より

調査時期	株数	株数%	主枝数	側枝数	側枝/株	枝数%
秋作出荷開始頃(10/28)	6,791	100%	6,791	—	—	100%
春作出荷開始頃(3/22)	4,387	65%	—	11,127	2.5	164%
春作出荷終了頃(6/30)	4,180	62%	—	9,567	2.3	141%

※栽植密度・・・畦幅2m・株間25cm・2本/穴・2条千鳥植

表2 出荷量

←秋作収穫→ 切り戻し・トンネル ←春作収穫→

項目	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	合計
出荷量(kg/10a)	144	159	0	0	0	597	707	137	1,743
出荷額(千円)	154	200	0	0	1	896	865	156	2,272
単価(円/kg)	1,072	1,263	0	0	1,920	1,501	1,223	1,140	1,303

※小数点以下は四捨五入

秋作の出荷量(11-12月)は台風や長雨の影響もあり、300kg/10a程度でした。その後1/上に切り戻しを行い3/中までトンネルを被覆した結果、株数は立枯れにより秋作時の65%に減ったものの、残った株に側枝が平均2.5本発生したため、枝数は164%に増加し、春作の出荷量は4-5月中旬に約1.4tとなり一定の早出しが実現できました。今回は台風で早期終了したため、3/中からの出荷と単収2tを目標に今後も検討を続けます。(担当:山口)



秋作収穫(～12/30)



切り戻し(1/6～7)



トンネル被覆(1/8～9)



トンネル除去前(3/上)

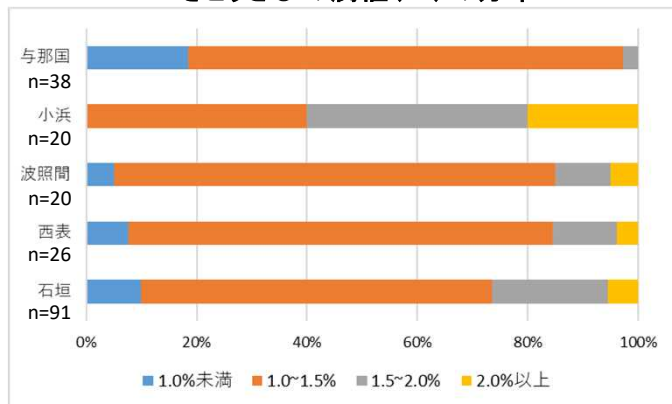


春作収穫(3/25～)

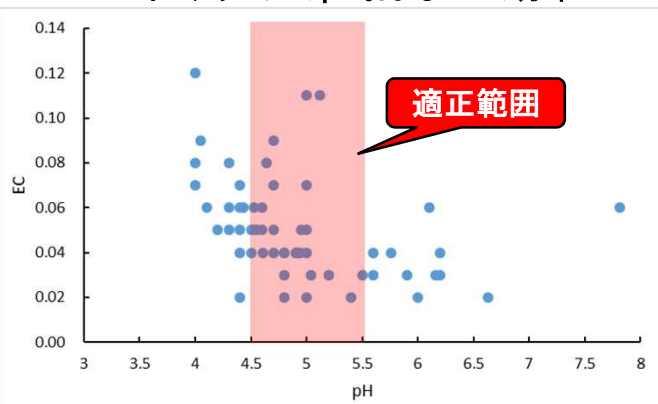
令和5年度土壌検診週間における土壌分析結果について

7月3日～14日の土壌検診週間における分析点数は、八重山地区で合計565点であり、作物別では、さとうきび195点、野菜137点、果樹174点、花き4点、水稻47点、牧草3点、かんしょ5点でした。(以下分析例)

さとうきびの腐植(%)の分布



パイナップルのpHおよびECの分布



さとうきびの腐植(≡有機物含量)は、小浜島でやや高い傾向が見られるものの、全地区とも適正範囲(2.0%以上)に入るほ場が少なく、土がやせています。堆肥や緑肥を利用した土づくりに努めましょう。またパイナップルの適正pHは4.5～5.5程度で、それ以上高い場合は、ほ場の変更を勧めますが、pH4.5未満の低すぎるほ場も、肥料成分の吸収が悪くなるため注意が必要です。(担当:舞木・内嶺)